



SC相模原JOB見学・体験ツアー

Jリーグのスタジアムで働く人々の「お仕事」を見学しながら「小・中学生時代に今の自分を想像していたか」を質問してまわるスタジアムツアーを企画。企業・NPO・行政との連携により実現したこのツアーには、相模原市と座間市から家庭の経済的な事情により進学に課題があったり、居場所をみつけれない小・中・高校生が参加。「進学が困難である」と考える子の中には、進学そのものが「壁」として立ち足ばかり、「夢」に対して消極的な子もいるという。職に就くためのルートが「学校」の延長線上だけにあるわけではないことに、話を聞いてもらう中で気づいてもらえたかった。

活動場所 : 相模原ギオンスタジアム

取組テーマ : 持続可能な地域づくり

協働者 : 企業/NPO/行政

協働者名 : マイクロン財団、相模原みのり塾/座間市生活援護課、社会福祉法人座間市社会福祉協議会、イオン株式会社

活動で工夫した点

ツアーガイドを、この業界に憧れているインターンをお願いしたことがヒットでした。年の近い大学生が引率してくれることで、子ども達の緊張をほぐすことができますし、働く人とのやり取りでは、ガイド本人の憧れも加算され、働く人の魅力を聞き出すことができ、仕事の説明では業界用語などをかみ砕いて子どもたちに解説出来たと思います。彼は、この4月から同じJ3の藤枝MYFCのスタッフとして頑張るようです。

活動で大変だった(苦労した)ポイント

①子どもたちへの見せ方 参加対象者は、生活保護受給世帯の子どもや、学校にいけない子、ひきこもりの子としました。彼らにこそ今回の企画に参加して欲しかったので、どんな誘い文句であれば興味を持ってもらえるかを相談員さんと悩みました。②親御さんへの対応子どもは参加希望でも、こういう場に子どもを連れだす事をあまりよしとしない方も中にはおり、ケアワーカーさんにその説得において力を発揮していただきました。

クラブや地域の活動後の変化

地域には色々な活動団体がある中で、互いの強み弱みを補い合いながら、助けてほしい部分を少しずつ重ねあうことで、子どもたちにかげがえのない1日を作れたことに感動した。この1日が1人の子の人生を変える事になった。教育に携わりたいという高校生が、この経験を自分のストロングポイントとして小論文にし、自分の強みとして人にPRしてくれた、そのことがうれしく、余計に感動している。(座間市生活援護課武藤さん)



協働者の声

- 「裏方の人の職業」の話がすごくよかった。色々な人が関わって物事が成り立つということ、中学時代に見聞き出来ることは、非常に意義のあることだと思う。(保護者男性)
- お金を貰って働くという経験のない子どもたちにとって「働く」ことの意味を知れる貴重な経験だったと思う。それよりも実は、「好きだから」というだけでボランティアとしてキラキラ活動していた方々の凄みに私は圧倒されました。子どもたちもそこは感じられていると思う。(みのり塾引率女性)
- 家にこもっていた〇〇君が、ゲートで他人に配りものを手伝ったり、選手と手をつないで入場したり(エスコートキッズ)、信じられない。(座間市社協職員)

参加者の声

- 学校の授業で理科は苦手だったけど、芝生育ててるよという話がびっくりした(小学生男子)
- 「学生時代なんて将来何するか考えられなかった、20歳頃に興味を持ったのがそのまま今の仕事につながってる」っていうのが、今はまだ将来のこと決められてなくても大丈夫なんだって思った。(中学生女子)
- 「学校関係ない」っていう言葉、ちょっとうれしかったです。(中学生女子)

活動の「ここぞ!」というPRポイント

J3の小さなクラブで、今あるもの・今できることにどう魔法をかけられるか。

補足

この1日のことを題材に小論文を記した高校生が、大学の教育学部合格! 本人曰く、自分は表立ってPR出来る事はないが、裏側で支える人の存在や想いを聞いたことで「それでもいいのだ!」と思えたこと。